

事後評価書

緊急地方道路整備事業：主要地方道鹿島嬉野線（鳥越トンネル）

要因	事業概要	事業による環境の変化	県民の意見	事業の効果	今後の課題等																																														
道 路 事 業	工事名 主要地方道 鹿島嬉野線 道路改良事業 工事区間 嬉野市塩田町谷所 ～ 嬉野市嬉野町吉田 工期 平成7年度～平成13年度 総事業費 約81億円 延長 L = 6.2 km (うちトンネル部 0.6km) 幅員 W = 12.0 m 事業概要 本路線は、鹿島市と嬉野市塩田町、嬉野町を結ぶ主要路線であり、鹿島市中心部と嬉野インターを結ぶ主要アクセス道路である。また災害時の救急活動を支える第2次緊急輸送道路として指定されており、重要な役割を担っている。このため、急勾配・急カーブが連続し、幅員が狭い鳥越峠を含む区間の改良を行うことにより、通行車両の円滑な走行及び交通安全を確保することを目的とした整備を行った。	生活環境 ・交通の難所であった鳥越峠が、トンネルの開通に伴い解消されたことで、鹿島市・嬉野市嬉野町間の移動が容易となった。 ・国立病院機構嬉野医療センターへのアクセスが向上し、地域住民の安全・安心に寄与している。 社会・文化環境 ・道路開通後、沿道に農特産物販売所（まんぞく館）やパン工房等が出来るなど、地域活動の発展に寄与している。	利用者の意見 ・鹿島・嬉野間の移動が早くなり・便利になった。また、見通しが良くなり、安全に通れるようになった。 ・沿線に直売所等ができたことで、賑やかになった。 ・自転車での峠越えが楽に出来るようになった。また、夜間にはトンネルの照明で安全に通行出来るようになった。 ・自動車交通量、特に大型車の量が増え、スピードも出しているために、道路の横断が危険になった。	交通量の変化 ・供用後、交通量は大幅に増加している。 2,645台/12h(H11) 5,502台/日(H17) (108%) ・同時に旅行速度の向上が図られている。 40.7km/h(H11) 45.1km/h(H17) (11%) ・供用後、大型車の交通量が増加している。(1.67倍) 交通事故の状況 ・事故件数は、完成前と比較して完成後に増加しているが、死傷事故率は低下している。 死傷事故率(件/億台・km) 41.1(H11) 36.5(H17) ・対人事故・死亡事故は完成前後5年間で比較すると、大幅に減少している。 対人事故 6件(H8～H12) 1件(H13～H17) 死亡事故 2件(H8～H12) 0件(H13～H17)	交通事故について 完成供用後、交通量が大幅に増加しているが対人事故、死亡事故が大幅に減少したが、事故件数は増加している。 維持管理について 今後の更に厳しい財政状況のもとであっても適切な維持管理は行う必要がある。そのためには、道路構造物を含む道路の状態を客観的に把握・評価し、最適な対策を決定できるシステムの構築が必要である。																																														
	事業を巡る社会経済情勢の変化 鹿島嬉野線の交通量の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査年度</th> <th>伸び</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H6 H9</td> <td>1.31</td> </tr> <tr> <td>H9 H11</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>H11 H17</td> <td>2.08</td> </tr> </tbody> </table>	調査年度	伸び	H6 H9	1.31	H9 H11	1.12	H11 H17	2.08	事業により整備された施設の管理状況 ・当路線を含む県道及び補助国道の維持管理については、県主体で行っている。 当路線では県により伐採年1回(梅雨明け頃)、トンネル施設の保守、点検等を行っている。 ・今後の更なる厳しい財政状況のもとであっても適切な維持管理は行う必要がある。	新規箇所評価、再評価への反映、改善点 維持管理について 現在、高齢化する道路橋が飛躍的に増大する橋梁について、長寿命化修繕計画の策定に向けて準備を行っている。この計画策定により、信頼性・安全性の確保、維持管理費用の縮減効果が見込まれる。																																								
	調査年度	伸び																																																	
H6 H9	1.31																																																		
H9 H11	1.12																																																		
H11 H17	2.08																																																		
道路橋梁費の推移 <p>道路橋梁費の推移</p>	地域住民との関わり ・当時は、事業計画段階で地区住民から事前了解や合意を得たものではなく、行政主導型で進めていた。 ・現在では、円滑な事業進捗を図るため、各段階で域の関係者に対して様々な情報提供を行い、意見を伺う等により、地元合意を確認しながら事業化することとしている。	表 主要地方道鹿島嬉野線の交通量の変化 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査年度</th> <th rowspan="2">交通量(台/12h)</th> <th rowspan="2">伸び率(対H6比)</th> <th rowspan="2">旅行速度(km/h)</th> <th colspan="2">貨物車類(台/12h)</th> <th rowspan="2">バス(台/12h)</th> <th colspan="2">合計(台/12h)</th> </tr> <tr> <th>小型</th> <th>普通</th> <th>貨物車類</th> <th>大型車</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H6</td> <td>1,798</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>H9</td> <td>2,363</td> <td>1.31</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>H11</td> <td>2,645</td> <td>1.47</td> <td>40.7</td> <td>827</td> <td>196</td> <td>34</td> <td>1,023</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>5,502</td> <td>3.06</td> <td>45.1</td> <td>1,081</td> <td>318</td> <td>66</td> <td>1,399</td> <td>384</td> </tr> </tbody> </table>	調査年度	交通量(台/12h)	伸び率(対H6比)	旅行速度(km/h)	貨物車類(台/12h)		バス(台/12h)	合計(台/12h)		小型	普通	貨物車類	大型車	H6	1,798								H9	2,363	1.31							H11	2,645	1.47	40.7	827	196	34	1,023	230	H17	5,502	3.06	45.1	1,081	318	66	1,399	384
調査年度	交通量(台/12h)	伸び率(対H6比)					旅行速度(km/h)	貨物車類(台/12h)		バス(台/12h)	合計(台/12h)																																								
			小型	普通	貨物車類	大型車																																													
H6	1,798																																																		
H9	2,363	1.31																																																	
H11	2,645	1.47	40.7	827	196	34	1,023	230																																											
H17	5,502	3.06	45.1	1,081	318	66	1,399	384																																											

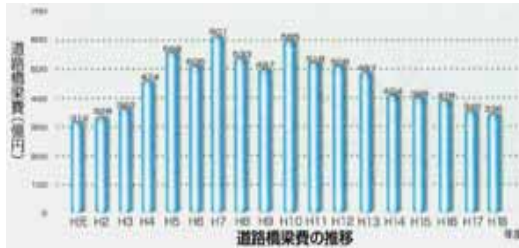


表 主要地方道鹿島嬉野線の交通量の変化

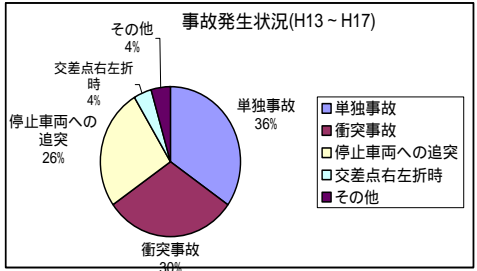
調査年度	交通量(台/12h)	伸び率(対H6比)	旅行速度(km/h)	貨物車類(台/12h)		バス(台/12h)	合計(台/12h)	
				小型	普通		貨物車類	大型車
H6	1,798							
H9	2,363	1.31						
H11	2,645	1.47	40.7	827	196	34	1,023	230
H17	5,502	3.06	45.1	1,081	318	66	1,399	384

事業区間の事故件数

年度	事故件数			うち対人
	軽傷	重傷	死亡	
H8	3	0	0	0
H9	2	1	0	2(軽傷2)
H10	2	0	0	2(軽傷2)
H11	3	0	0	0
H12	2	0	2	2(死亡2)
H13	4	0	0	0
H14	3	1	0	1(重傷1)
H15	4	0	0	0
H16	5	0	0	0
H17	6	0	0	0

事故発生状況(H13～H17)(件数)

発生箇所(道路形状)	発生時間帯	発生原因	
		単独事故	衝突事故
交差点	昼	18	7
	夜	5	6
単路	昼	1	1
	夜	1	1
合計		23	23



死傷事故率(件/億台・km)

期間	交通量(台/日)	事故件数(件)	死傷事故率
完成供用前(H11)	3,227	3	41.1
完成供用後(H17)	7,263	6	36.5

県管理道路

区間	H11	H15
全道	66	124
主要地方道	59	117